

第一主日礼拝

午前 10:30-11:30

(YouTube 同時配信)

前奏・黙祷

招 詞 詩篇 36 篇 7-9 節 (旧約 968)

賛 美 いざ皆来りて (インマヌエル 77)

交 読 詩篇 112 篇 1-10 節 (旧約 1054)

主の祈り・使徒信条

聖書朗読 ヨハネの福音書 21 章 1-14 節 (新約 229)

牧者公祷 (換気を行います)

説 教 『主だ、と分かる瞬間』

松井元始牧師

応答のとき

賛 美 目には見えねども (インマヌエル 139)

感謝祈祷

頌 栄 父・御子・御霊の (インマヌエル 7)

祝 祷

後奏・黙祷

* * *

報 告

【献金は週報に添付の封筒を用いて、入口の献金かごにお入れください】

〈司会〉	〈奏楽〉	〈受付〉	〈聖書朗読〉	〈感謝祈祷〉
松井師	牧子師		司会者	

配信をご覧になれない方には CD を後日お届けできます。お申し出ください。

インマヌエル王子キリスト教会

牧師: 松井元始・牧子

〒114-0023 東京都北区滝野川 1-41-6 Tel 03-3910-4529

HomePage: <https://igm-ouji-church.jimdo.com/>E-mail: immanuelojichurch@gmail.com

銀行振込: みずほ銀行 王子支店 普通 1364893



『主だ、と分かる瞬間』 (ヨハネの福音書 21 章 1-14 節) 2023.5.7.

〈はじめに〉 ハッと気づく瞬間があります。今までわからなかったこと、もやもやしていたことが一気につながり、解けて、一筋の光が差し込む瞬間です。イエスが分かるのもこれと似たところがあります。弟子たちもその経験をしているからです。

I 三度目の顕現

① 再び弟子たちに(1)

よみがえられたイエスは、すでに 20 章で弟子たちにエルサレムで 2 度にわたり現れ、この箇所でも 3 度目です(14)。イエスが回を重ねて弟子たちに現れたのはどうしてでしょうか。過去 2 回と今回とでは、どんなところが違うでしょう。

② ティベリア湖畔にて(1)

ティベリア湖はガリラヤ湖とも称され、ペテロら多くの弟子の故郷にあり、イエスとともに過ごした場所でした。また、イエスは十字架に架かれる前夜に、よみがえった後ガリラヤに行くと言われ(マタイ 26:32)、復活後にもその約束を再述されています(マタイ 28:7,10)。

③ 主だ、と分かる(7)

7 名の弟子は、ペテロの発案で漁に出ますが、何も捕れません。が、岸からの助言に従ったところ、驚くほどの大漁となります。その時、その声の主がイエスだと気づきます。私たちも、ある時突然に「主だ」と分かる瞬間があります。気づききっかけは何だったのでしょうか。

II 主だ、と分かるポイント(自分でも見つけてください)

① 一転しての大漁(3-6, ルカ 5:1-11)

夜通し働いても何一つ捕れなかった彼らが、助言に従って網を下ろすと大漁を得た出来事は、イエスとの出会いと弟子としての始まりの出来事でした。そこでペテロが気づいたのは主のことばに力があることと、自分の罪深さでした。

② 用意された食事(9-13, ヨハネ 6:1-13)

パンと魚は群衆を養われた奇跡と共通アイテムです。イエスの伝道活動の頂点の出来事でした。「持って来なさい」(10)と招き、それを用いて御業をなされました。食べる物が無い者たちをあわれみ、満たされただけでなく、労した弟子たちも満たされました。

③ パンと炭火(9,13, マタイ 26:26, ヨハネ 18:18,25)

十字架の前夜、パンを裂いて分かち与えるイエスの姿と重なります。その食事は罪の赦しの契約の証しです。しかし、弟子たちはイエスを捨てて逃げました。離れてイエスを追ったペテロが、三度イエスのことを知らないと言ったのも、炭火のそばでした。

III イエスとはどんな御方か

① 傍らに立つイエス(4)

弟子たちが漁をする湖畔にイエスは立って、弟子たちを見つめ、声を掛けられます。よみがえられたイエスは私たちの生活の傍らに立ち、見つめておられます。「子どもたちよ」(5, 13:33)といつくしみ、助言を与えられる御方(イザヤ 9:6)です。

② 先回りされるイエス(9)

イエスは弟子たちの動きをずっと見守っておられたのではないのでしょうか。その間に炭火を起し、食事を整えておられます。約束されたとおり、弟子たちより先にガリラヤにおられました。私たちの前を歩み、先を見通し、前もって語られる御方です。

③ 気づくの待つイエス(12)

自分から現れて名乗るのではなく、弟子たちが自分で発見し、受け取るように仕向けておられます。イエスの教え・導きは手取り足取りでの事細かな指示・指導ではありません。イエスとともに歩む日々を通して、イエスのことばと生き方を受け取ることです。

〈おわりに〉 3 年余りイエスとともに過ごした弟子たちだからこそ、この場面で「主だ」と気づくことができました。イエスと歩む日々の積み重ねの中で、生活の端々にイエスを見出し、その御声を思い起こすことができるようになります。生きておられる主に気づいていますか。(H.M.)